



## 応援のしるし

大田区立大森第七中学校 三年 竹尾 美咲

私には仙台に住んでいる祖父母がいる。私にとって祖父母はいつも私を応援してくれる大切な人たちだ。昔から、どんなときでも私を励まし、支えてくれている。そんな二人には、帰省の度にいろいろなところに連れてってもらった。お陰で私は様々な体験をすることができた。しかし、新型コロナウイルスにより外出が厳しくなり、人との会話もはばかれる為、祖父はライフワークにしていた博物館の解説ボランティアを辞めることになった。おまけに私もなかなか会いにいけなくなった。

そんな中、祖父が楽しみにしているのは図書館だ。祖父は本が好きで以前から図書館に通っていたが、外出があまりできない時期には図書館通いが良い運動となり、日々の健康維持に役立っている。住民税で支えられている図書館があったから、コロナ禍にあっても引きこもることなく過ごすことが出来たのだ。祖父は、図書館に通うために敬老乗車証を使ってバスに乗っている。これは七十歳以上の市民が公共交通機関を自己負担額10%で利用することができるもので、利用者の負担金以外は税金で運営されている。都市部より運賃が高めな地方で、何度も公共交通機関を利用する祖父にとっては欠かせないものだ。

令和四年度の仙台市健康福祉局高齢企画課による敬老乗車証制度に関する二つのアンケート結果によると、六十歳以上では一人暮らしや配偶者と同居している人が、子供と同居している人よりも多く、リタイアしている人は全体の七十八・九%を占めている。日々の買い物や通院のために公共交通機関を利用している人が半数以上を占め、七十歳以上で敬老乗車証の交付を受け、利用している人は八五・四%、敬老乗車証があることで外出回数が増えた人は四五・七%と需要の高さが伺える。免許返納後も外出し、毎日楽しく健康に過ごすためにも税金で支えられている敬老乗車証は必要だ。ただ、全国的に見ても、この制度がまだまだ少ないため、これからもっと拡大してほしいと思う。

図書館、敬老乗車証だけでなく、道路整備や公園、公立病院、ごみ収集など普段当たり前のようになっている生活の中には、税金で支えられているものであられている。私が通う区立中学校もそのうちの一つで、入学と同時に改築工事後の新校舎で学ぶことが出来ているが、綺麗な校舎で快適に勉強ができるのも税金のお陰だ。普段の生活は決して当たり前ではなく、誰かに支えられて今がある。私を応援してくれている祖母が、これからも元気に楽しく、様々な体験ができるよう、今度は私が税金を支払うことで支えていきたい。